

認可

[平成21年度設置]

計画の区分：研究科の設置

注1

国際医療福祉大学大学院 薬科学研究科

注2

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 国際医療福祉大学
平成22年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名	企画部
職名・氏名	シュジ ^{ダイ} ^{シマ} ^{ヒロシ} 主事 大 島 博 史
電話番号	03-3475-0211
（夜間）	03-3475-0211
F A X	03-3475-0855
e-mail	hooshima@iuhw. ac. jp

(注) 1 「計画の区分」は認可時の基本計画書の「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

認可時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には認可時の旧名称を記載いただき、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部
(□□学部)

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 〇〇学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 〇〇学部 〇〇学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 〇〇学科」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 〇〇学部 〇〇学科（通信教育課程）」

「留意事項実施状況報告書」の場合は、表題を修正してください。

「意見伺い」の場合は、表題を修正してください。

目 次

- 1—① 概要等
- 1—② 【大学院】名称、定員、入学状況等
- 1—③ 退学状況等
- 2—① 授業科目
- 2—② 授業科目
- 3 施設設備
- 4 既設状況
- 5—① 【研究科】教員組織
- 5—② 教員組織
- 6 留意事項
- 7—① 全般の事項
- 7—② 全般の事項

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 国際医療福祉大学

(2) 大学名

国際医療福祉大学

(3) 大学の位置

〒324-8501
栃木県大田原市北金丸字上ノ原2, 600番1
〒107-0062
東京都港区南青山1-3-3

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	認可時	変更状況	備考
理事長	(タカギ クニノリ) 高木 邦格 (平成6年12月21日)		
学長	(タニ シュウイチ) 谷 修一 (平成13年10月1日)	(キタジマ マサキ) 北島 政樹 (平成21年7月1日)	変更の理由: 前学長の辞任 変更年月日: 平成21年7月1日 (22)
大学院長	(カイハラ シゲコト) 開原 成允 (平成15年4月1日)		
研究科長	(タケダ ヒロシ) 武田 弘志 (平成21年4月1日)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成19年度に報告済の内容 → (19)

平成22年度に報告する内容 → (22)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて見え消し修正するとともに、上記と同様に「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください。
 ・ 様式は, 平成20年度開設の博士後期課程の場合(平成22年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称, 定員

調査対象研究科等の名称(学位)	設置時の計画			備考
	修業年限	入学定員	収容定員	
薬科学研究科 医療・生命薬科学専攻 (修士課程) 修士(薬科学)	2年	15人	30人	基礎となる学部等 薬学部薬学科(4年制)

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平均入学定員超過率	備考
		()人	(8) 15人	()人		
A 入学定員		()人	(8) 15人	()人	(1.00) 0.86	平成22年4月から学生募集停止。
志願者数		()	(8) 18	()		
受験者数		()	(8) 18	()		
合格者数		()	(8) 18	()		
B 入学者数		()	(8) 13	()		
入学定員超過率 B/A		()	(1.00) 0.86	()		

- (注) ・ ()内には, 社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。
 入学定員超過率も同様の方法としてください。
 ・ 「平成22年度」には, 平成22年5月1日現在の状況を記入してください。
 ・ 「平成20~21年度」には, 確定した数値を記入してください。

(5) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

学年	報告年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	備考
		[]	[0] 16	[0] 1	
1年次		[]	[0] 16	[0] 1	平成21年度入学生のうち、医療福祉学研究科から転研究科してきた3名のうち、2名は大学院学則に定める特例による1年以上の在学で修了できる規定により、平成22年3月修了。
2年次		[]	[]	[0] 12	
3年次		[]	[]	[]	
計		[]	[]	[]	

- (注) ・ []内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 各年度の5月1日現在の状況を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	退学者数 (a)	入学者数 (b)	入学者に対する 退学者数の割合 (a/b)
平成19年度	計 []	(累積)計 []	[] %
	うち平成19年度入学者 人	うち平成19年度 人	%
	(主な退学理由)		
平成20年度	計 []	(累積)計 []	[] %
	うち平成19年度入学者 人	うち平成19年度 人	%
	うち平成20年度入学者 人	うち平成20年度 人	
	(主な退学理由)		
平成21年度	計 [0] 0	(累積)計 [0] 13	[0] % 0 %
	うち平成19年度入学者 人	うち平成19年度 人	
	うち平成20年度入学者 人	うち平成20年度 人	
	うち平成21年度入学者 0人	うち平成21年度 13人	
	(主な退学理由)		
平成22年度	計 [0] 0	(累積)計 [0] 13	[0] % 0 %
	うち平成19年度入学者 人	平成19年度 人	
	うち平成20年度入学者 人	平成20年度 人	
	うち平成21年度入学者 0人	平成21年度 13人	
	うち平成22年度入学者 人	平成22年度 人	
(主な退学理由)			

(注)・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。

- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、各対象年度における退学者数を開設年度から当該年度までの入学者（累積）で除した割合（%）を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に、その人数も含めて記入してください。
 - ・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 - ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他
- ・「平成22年度」については5月1日現在の状況を記入してください。
- ・「平成19～21年度」には、確定した数値を記入してください。

2 授業科目の概要

<大学院薬科学研究科 医療・生命薬科学専攻（修士課程）>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由		教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	人体病理学研究法	1・2前 未開講											通常開講(22) 担当教員が急病となり代替者の配置が困難なため(21)
	統計学	1・2前後		1									
	統計学入門	1・2前		2									
	実例から学ぶ統計解析入門	1・2前 後		2				1					シラバスを精査し、修正すべき事項で未修正のものを修正した。(21)
	人体の構造と機能	1・2前		2			1						学生の教育効果を考慮し、兼任教員(2名)に変更(22)
	臨床遺伝学概論	1・2後		2									
	脳障害の生物学	1・2前 後		2									学生の教育効果を考慮し、開講時期を変更(22)
	疫学概論	1・2前		2			1						学生への教育効果を考慮し、担当教員を変更。(22) 担当 池田俊也(教授) 平成22年6月変更書提出予定
	臨床心理学概論	1・2前		2									
	社会福祉概論	1・2前		2									
	医療経済評価概論	1・2前		2			1						
	医療福祉情報学入門	1・2前		2									
	医学用語初歩	1・2前 通年 後		1									学生の教育効果を考慮し、開講時期を変更(22) シラバスを精査し、修正すべき事項で未修正のものを修正した。(21)
	専門科目	臨床医学特論Ⅰ(内科系)	1・2後		1								
臨床医学特論Ⅱ(外科系)		1・2後		1									
薬理学特論		1・2後		1			2		1				
薬物治療学特論		1・2後		2			1						
ゲノム分子生物学特論		1・2後		1			1	1					
医療・生命薬科学総合演習Ⅰ(生命系)		1前		2			9	3	1				平成22年度から学生募集停止し、1年次生対象科目のため、履修者なし。平成22年度開設薬科学研究科(生命薬科学専攻)の「生命薬科学総合演習Ⅰ(基礎系)」に該当(22)
医療・生命薬科学総合演習Ⅱ(医療系)		1後		2			6	1					平成22年度から学生募集停止し、1年次生対象科目のため、履修者なし。平成22年度開設薬科学研究科(生命薬科学専攻)の「生命薬科学総合演習Ⅱ(臨床系)」に該当(22)
がんの基礎薬学		1・2前		1			2	1					辞任に伴う教員の変更(22)
基礎腫瘍学		1・2後		1				1					
がんの薬物療法学		1・2後		1			4						
臨床腫瘍学Ⅰ(基礎)		1・2後		1			1						
臨床腫瘍学Ⅱ(応用)		1・2後		2			2	1					
緩和薬理学		1・2後		1			1		1				
臨床薬物動態学特論Ⅰ(基礎)		1・2後		1			1	1					学生の履修の便宜を図り、配当年次を変更(21)
臨床薬物動態学特論Ⅱ(応用)	1・2後		1			1	1					辞任に伴う教員の変更(22)	
がん薬物療法学特別実習	1・2後		-2			2				1		学生の履修の便宜を図り、配当年次を変更(21)、単位数は学生への教育効果を考慮し、変更(21)	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	がん治療TDM特別実習	1・2後 2後		1 -2			1			1		学生の履修の便宜を図り、配当年次を変更(21)、単位数は学生への教育効果を考慮し、変更(21)
	がん薬物療法認定薬剤師実習	1・2後 2後		6		2						学生の履修の便宜を図り、配当年次を変更(21)
	医療コミュニケーション論	1・2後 1前		2								
	創薬育薬医療講義Ⅰ(基礎)	1~2前		2								学生への教育効果を考慮し、配当年次を変更(21)
	創薬育薬医療講義Ⅱ(応用)	1・2後		2				+				平成22年度から学生募集停止し、1年次生対象科目のため履修者なし。平成22年度開設薬科学研究科(生命薬科学専攻)の「創薬育薬医療講義Ⅰ(基礎)」に該当(22)
	創薬育薬医療演習Ⅰ(基礎)	1・2前		2 -1				+				辞任に伴う教員の変更(22)
	創薬育薬医療演習Ⅱ(応用)	1・2後		2				+				学生への教育効果を考慮し、単位数を変更(21)
	創薬育薬医療演習Ⅲ(展開)	1・2通年		1 -2				+				辞任に伴う教員の変更(22)
	創薬育薬医療実習Ⅰ(基礎)	2前		2				+				辞任に伴う教員の変更(22)
	創薬育薬医療実習Ⅱ(応用)	2後		2				+				辞任に伴う教員の変更(22)
	臨床病院実務実習Ⅰ(長期)	1・2通年		1 0		2 +			-	1		専任教員就任辞退のため担当者を変更(21) 担当 井上忠夫(教授) 平成21年6月変更書提出予定
	臨床病院実務実習Ⅱ(中期)	1・2前		6 -2		2 +				-		単位数は、補正申請書において正しく6単位と記載されていたものを本履行状況報告において誤って2単位と記載した修正すべき事項の修正した。 専任教員就任辞退のため担当者を変更(21) 担当 井上忠夫(教授) 平成21年6月変更書提出予定
	臨床病院実務実習Ⅲ(短期)	未開講 1~2前		2		1	1		-	1		履修希望者がいなかったため(21) 専任教員就任辞退のため担当者を変更(21) 担当 井上忠夫(教授) 平成21年6月変更書提出予定
	臨床保険薬局実務実習Ⅰ(長期)	1・2通年		1 0		1						履修希望者がいなかったため(21)
	臨床保険薬局実務実習Ⅱ(短期)	未開講 1~2前		2			1					
医療・生命薬科学特別研究	1~2通年	1 0			15	6 -4		3 +			辞任及び教育内容充実のための教員の変更(22) 担当 浅野 哲(教授) 平成22年6月変更書提出予定 担当 天野 託(教授) 平成22年6月変更書提出予定 担当 徳村 忠(准教授) 平成22年6月変更書提出予定 担当 榎原 巖(准教授) 平成22年6月変更書提出予定 担当 清水貴壽(講師) 平成22年6月変更書提出予定 担当 加藤英明(講師) 平成22年6月変更書提出予定	

- (注) ・認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・設置認可時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載いただき、設置認可時より変更されているものは赤字で見え直し修正いただき、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 - ・授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査年月等を「備考」に記入してください。(今後、審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 - ・「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記載する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記載いただき、平成22年5月1日現在の状況を赤字で見え直し修正してください。

(2) 授業科目数

認可時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目 1	科目 44	科目 0	科目 45	科目 1	科目 44	科目 0	科目 45	
				[0]	[0]	[0]	[0]	

- (注) ・未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、[]内に、設置認可時の計画からの増減を記入してください。(記入例: 1科目減の場合: Δ1)

(3) 未開講科目 なし

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

(注) ・ 設置認可時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。

(4) 廃止科目 なし

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

(注) ・ 設置認可時の計画にあった授業科目を何らかの理由で廃止 (教育課程から削除) した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

(注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「認可時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{認可時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0.00}$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

(大田原キャンパス)

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	社会福祉法人へ土地を 売却したため(校舎敷 地)及び社会福祉法人 へ賃貸している土地で 除外すべき面積で除外 していなかったもの (その他)を今回精 査・算出の際除外した ため(22)		
	校舎敷地	112,999 m ² 115,948 m²	0 m ²	0 m ²	112,999 m ² 115,948 m²			
	運動場用地	65,778 m ²	0 m ²	0 m ²	65,778 m ²			
	小 計	178,777 m ² 181,726 m²	0 m ² 0 m ²	0 m ² 0 m ²	178,777 m ² 181,726 m²			
	そ の 他	41,221 m ² 47,062 m²	0 m ²	0 m ²	41,221 m ² 47,062 m²			
	合 計	219,998 m ² 228,788 m²	0 m ² 0 m ²	0 m ² 0 m ²	219,998 m ² 228,788 m²			
(2) 校 舎	専 用	60,705.94 m ² 60,024.00 m² 60,705.94 m ² (60,024.00 m²)	0 m ²	0 m ²	60,705.94 m ² 60,024.00 m² 60,705.94 m ² (60,024.00 m²)	今回基礎資料から大学 設置基準に従い、精 査・算出し、修正した ため(22)		
	共 用	(0 m ²)	(0 m ²)	(0 m ²)				
	共用する他の 学校等の専用	(0 m ²)	(0 m ²)	(0 m ²)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			
	82 室	22 室	98 室	4 室 (補助職員2人)	2 室 (補助職員1人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数				
	薬科学研究科			26 室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	今回基礎資料から精査 して、学術雑誌の数値 を修正したため(22)
	薬科学研究科	10,000 [2,000] (8,823 [1,554])	2,200 [460] (2,068 [392]) 3,600 [0] (3,456 [0])	1,800 [1,200] (1,770 [1,157])	500 (373)	6,300 (6,071)	140 (130)	
	計	10,000 [2,000] (8,823 [1,554])	2,200 [460] (2,068 [392]) 3,600 [0] (3,456 [0])	1,800 [1,200] (1,770 [1,157])	500 (373)	6,300 (6,071)	140 (130)	
(6) 図 書 館	面 積	閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数				
	2,486.24 m ²	726 席		150,000 冊				
(7) 体 育 館	面 積	体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要						
	5,331.29 m ²	弓道場、テニスコート6面、武道場						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		800千円	800千円	図書購入費	5,000千円	5,000千円	5,000千円	
	共同研究費等	12,000千円	12,000千円	設備購入費	35,000千円	35,000千円	35,000千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
1,050千円	850千円	千円	千円	千円	千円	千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等						

- (注) 1 認可時の計画を設置認可申請書の様式第2号(その1)に準じて作成してください。
 2 複数のキャンパスに分かれている場合は、キャンパス毎に作成してください。
 3 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を備考欄に記入してください。
 4 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を朱書きで見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(22)」を「備考」欄に朱書きしてください。
 なお、昨年度の報告において朱書きで見え消した部分については、黒字で記載してください。
 5 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、《別紙様式2》により、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

(東京青山キャンパス)

区 分		内 容				備考					
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学院のみの授業を行い、学部 の授業は行わないため、運動場 用地はない。					
	校 舎 敷 地	1,532 m ²	0 m ²	0 m ²	1,532 m ²						
	運 動 場 用 地	0 m ²	0 m ²	0 m ²	0 m ²						
	小 計	1,532 m ²	0 m ²	0 m ²	1,532 m ²						
	そ の 他	0 m ²	0 m ²	0 m ²	0 m ²						
	合 計	1,532 m ²	0 m ²	0 m ²	1,532 m ²						
(2) 校 舎	専 用	2,894 m ²	0 m ²	0 m ²	2,894 m ²						
	(2,894 m ²)	(0 m ²)	(0 m ²)	(0 m ²)	(2,894 m ²)						
(3) 教 室 等	講 義 室	5 室	演 習 室	4 室	実験実習室	5 室	情報処理学習施設	1 室 (補助職員 1人)	語学学習施設	0 室 (補助職員 0人)	
	(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数					
		薬科学研究科			2 室						
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機 械 ・ 器 具	標 本				
		[うち外国書]	[うち外国書]	電子ジャーナル							
	冊	種	[うち外国書]	点	点	点					
	薬科学研究科	6,000 [300] (5,222 [277])	250 [50] (194 [23])	(1,750 [1,140]) (1,735 [1,122])	40 (22)	230 (213)	0 (0)				
計	6,000 [300] (5,222 [277])	250 [50] (194 [23])	(1,750 [1,140]) (1,735 [1,122])	40 (22)	230 (213)	0 (0)					
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数						
	214.5 m ²		35 席		10,000 冊						
(7) 体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要								
	0 m ²		なし								
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度			
		教員1人当り研究費等	800千円	800千円	図書購入費	5,000千円	5,000千円	5,000千円			
		共同研究費等	12,000千円	12,000千円	設備購入費	35,000千円	35,000千円	35,000千円			
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
		1,050千円	850千円	千円	千円	千円	千円				
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等									

- (注) 1 認可時の計画を設置認可申請書の様式第2号(その1)に準じて作成してください。
 2 複数のキャンパスに分かれている場合は、キャンパス毎に作成してください。
 3 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を備考欄に記入してください。
 4 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を朱書きで見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(22)」を「備考」欄に朱書きしてください。
 なお、昨年度の報告において朱書きで見え消しした部分については、黒字で記載してください。
 5 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、《別紙様式2》により、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

4 既設大学等の状況

大学の名称	国際医療福祉大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
保健医療学部	4	480		1,920		1.25	平成7年度	栃木県大田原市北金丸2600番1	
看護学科	4	100		400	学士(看護学)	1.29	平成7年度		
理学療法学科	4	80		320	学士(理学療法学)	1.27	平成7年度		
作業療法学科	4	80		320	学士(作業療法学)	1.23	平成7年度		
言語聴覚学科	4	80		320	学士(言語聴覚学)	1.17	平成7年度		
視機能療法学科	4	40		160	学士(視機能療法学)	1.25	平成14年度		
放射線・情報科学科	4	100		400	学士(放射線・情報科学)	1.27	平成7年度		
医療福祉学部	4	160	5	650		1.09	平成9年度		
医療福祉・マネジメント学科	4	160	5	650	学士(医療福祉学)	1.09	平成21年度		
					学士(医療マネジメント学)				
医療経営管理学科	4	100		400	学士(医療経営管理学)	—	平成9年度		平成21年度から学生募集停止
医療福祉学科	4	140	5	570	学士(医療福祉学)	—	平成9年度		平成21年度から学生募集停止
薬学部(6年制)	6	180		1080		0.97	平成18年度		
薬学科(6年制)	6	180		1080	学士(薬学)	0.97	平成18年度		
福岡リハビリテーション学部		160		640				福岡県大川市榎津字中曾利137番1	
理学療法学科	4	80		320	学士(理学療法学)	1.14	平成17年度		
作業療法学科	4	40		160	学士(作業療法学)	1.18	平成17年度		
言語聴覚学科	4	40		160	学士(言語聴覚学)	1.14	平成19年度		

既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	備考
小田原保健医療学部	4	130		520		1.23			
看護学科	4	50		200	学士(看護学)	1.11	平成18年度	神奈川県小田原市城山一丁目2番25号	
理学療法学科	4	40		160	学士(理学療法学)	1.32	平成18年度		
作業療法学科	4	40		160	学士(作業療法学)	1.28	平成18年度		
福岡看護学部	4	80		320					福岡県福岡市長浜1丁目3番1号
看護学科	4	80		320	学士(看護学)	1.27	平成21年度		
医療福祉学研究科									
保健医療学専攻 (修士課程)	2	100		200	修士(保健医療学)	1.31	平成11年度	栃木県大田原市北金丸2600番1	
					修士(看護学)				
					修士(助産学)				
					修士(医療福祉)	1.08	平成13年度		
医療福祉経営専攻 (修士課程)	2	50		100	修士(医療福祉)	1.08	平成13年度		
					修士(診療情報管理学)				
					修士(医療ビジネス経営学)				
					修士(医療福祉管理学)				
臨床心理学専攻 (修士課程)	2	25		50	修士(臨床心理学)	1.00	平成19年度	東京都港区南青山一丁目3番3号	
保健医療学専攻 (博士課程)	3	50		150	博士(保健医療学)	1.61	平成13年度	栃木県大田原市北金丸2600番1	
					博士(看護学)				
					博士(助産学)				
					博士(医療福祉経営学)				
					博士(医療福祉学)				

既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	定 員 超 過 率	開 設 年 度	所 在 地	備 考
薬科学研究科 医療・生命薬科学専 攻（修士課程）	2	15		30	修士（薬科学）	—	平成21年度	栃木県大田原 市北金丸2600 番1	平成22年 度から学 生募集停 止
薬科学研究科 生命薬科学専攻 （修士課程）	2	15		30	修士（薬科学）	0.60	平成22年度		

（注）・本調査の対象となっている大学等の設置者（学校法人等）が、既に設置している全ての大学の学部、学部の学科、短期大学の学科及び高等専門学校学科について、大学、短期大学又は高等専門学校ごとに、平成22年5月1日現在の状況を記入してください。

（専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。）

- ・認可申請書の様式第2号（その1の1）に準じて作成してください。
- ・「定員超過率」には、過去標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点第2位まで（小数点第3位を切り捨て）を、学科（短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程）単位で記入してください。なお、学生募集停止を行った学科（短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程）の記載は不要です。
- ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員と収容定員は「—」とし、「備考」に「平成〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<薬科学研究科 医療・生命薬科学専攻（修士課程）>

(1) 担当教員表

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	千葉百子	平成21年4月	がんの基礎薬学	兼任	教授	浅野 哲	平成22年4月	がんの基礎薬学	平成22年3月 千葉百子教授辞任のため 平成22年度より担当者の 変更 平成22年6月 変更書提出予定
				医療・生命薬科学特別研究	専	教授	浅野 哲	平成22年9月	医療・生命薬科学特別研究	
専	教授	久岡正史	平成21年4月	臨床薬物動態学特論Ⅱ(応用)	兼任	講師	大谷 壽一	平成22年9月	臨床薬物動態学特論Ⅱ(応用)	平成22年3月 久岡正史教授辞任のため 平成22年度より担当者の 変更(22) 平成22年6月 変更書提出予定
				医療・生命薬科学総合演習Ⅱ(医療系) 医療・生命薬科学特別研究	専	教授	天野 託	平成22年9月	医療・生命薬科学総合演習Ⅱ(医療系) 医療・生命薬科学特別研究	
専	准教授	北川 明	平成21年4月	実例から学ぶ統計解析入門	兼任	講師	大橋 靖雄	平成22年4月	実例から学ぶ統計解析入門	平成21年9月 北川明准教授辞任のため 平成22年10月から 担当者の変更(22)
				創薬育薬医療講義Ⅱ(応用)	兼任	講師	渡邊 裕之	平成22年4月	実例から学ぶ統計解析入門	
				創薬育薬医療演習Ⅰ(基礎)	兼任	教授	大西 純一	平成22年4月	創薬育薬医療演習Ⅱ(応用)	
				創薬育薬医療演習Ⅲ(展開)					創薬育薬医療演習Ⅱ(応用)	
				創薬育薬医療実習Ⅰ(基礎)					創薬育薬医療実習Ⅰ(基礎)	
				創薬育薬医療実習Ⅰ(応用)					創薬育薬医療実習Ⅰ(応用)	

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
					専任	准教授	徳村 忠一	平成22年9月	医療・生命薬科学特別研究	教育内容の充実を図るため専任教員を増員(22) 平成22年6月 変更書提出予定
					専任	准教授	榊原 巖	平成22年9月	医療・生命薬科学特別研究	
					専任	講師	清水 貴壽	平成22年9月	医療・生命薬科学特別研究	
					専任	講師	加藤 英明	平成22年9月	医療・生命薬科学特別研究	
専任	講師	渡辺茂和	平成21年4月	臨床病院実務実習Ⅰ(長期) 臨床病院実務実習Ⅱ(中期) 臨床病院実務実習Ⅲ(短期)	兼任	教授	井上 忠夫	平成21年4月	臨床病院実務実習Ⅰ(長期) 臨床病院実務実習Ⅱ(中期) 臨床病院実務実習Ⅲ(短期)	平成21年2月 渡辺茂和講師就任辞退による担当者の変更(21) 臨床病院実務実習Ⅲは未開講(21)
					専任	教授	井上 忠夫	平成21年9月	臨床病院実務実習Ⅰ(長期) 臨床病院実務実習Ⅱ(中期) 臨床病院実務実習Ⅲ(短期)	平成21年6月 変更書提出予定(21)
兼任	教授	杉森 甫	平成21年4月	創薬育薬医療講義Ⅰ(基礎)	兼任	教授	大西 純一	平成22年4月	創薬育薬医療講義Ⅰ(基礎)	平成22年3月 杉森甫教授辞任のため 担当者を変更(22)
					兼任	教授	杉森 甫	平成22年4月	創薬育薬医療演習Ⅲ(展開) 創薬育薬医療実習Ⅰ(基礎) 創薬育薬医療実習Ⅱ(応用)	平成22年4月 学生への教育効果を考慮し、 教員を増員(22)
兼任	教授	佐々木 淳	平成21年4月	創薬育薬医療講義Ⅰ(基礎) 創薬育薬医療実習Ⅰ(基礎) 創薬育薬医療実習Ⅱ(応用)	兼任	教授	佐々木 淳	平成21年4月	創薬育薬医療演習Ⅲ(展開) 創薬育薬医療実習Ⅰ(基礎) 創薬育薬医療実習Ⅱ(応用)	
					兼任	教授	大西 純一	平成22年4月	医療コミュニケーション論	平成22年4月 学生への教育効果を考慮し、 教員を増員(22)
兼任	教授	鈴木義之	平成21年4月	脳障害の生物学	兼任	教授	桃井 隆	平成22年4月	脳障害の生物学	平成22年3月 鈴木義之教授辞任のため、 担当者を変更(22)
兼任	教授	安島智子	平成21年4月	臨床心理学概論	兼任	講師	白井 明美	平成21年4月	臨床心理学概論	安島教授の退職による 担当者の変更(21)
兼任	講師	加藤憲司	平成21年4月	疫学概論	専任	教授	池田 俊也	平成22年9月	疫学概論	平成22年3月 加藤憲司講師 辞任のため、担当者の変更(22) 平成22年6月 変更書提出予定(22)

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	中原 綾子	平成21年4月	医療コミュニケーション論 創薬育薬医療演習Ⅲ(展開)	兼任	講師	中原 綾子	平成22年4月	医療コミュニケーション論 創薬育薬医療演習Ⅲ(展開) 創薬育薬医療演習Ⅰ(基礎) 創薬育薬医療演習Ⅱ(応用) 創薬育薬医療実習Ⅰ(基礎) 創薬育薬医療実習Ⅱ(応用)	平成22年4月 学生への教育効果を考慮し、 教員を増員(22)
兼任	講師	嶋田裕之	平成21年4月	人体病理学研究法			後任未定			就任辞退(21) 「後任未定」平成21年度「人体病理学研究法」は前期科目のため、代替教員配置困難のため、未開講(21)
					兼任	講師	林 皓三郎	平成22年4月	人体病理学研究法	兼任教員を配置し、通常開講(22)
				臨床遺伝学概論	兼任	教授	鈴木義之	平成21年4月	臨床遺伝学概論	平成21年2月嶋田裕之兼任講師就任辞退による担当者の変更(21)
				兼任	教授	桃井 隆	平成22年4月	臨床遺伝学概論	平成22年3月鈴木義之の教授辞任のため、担当者を変更(22)	
				兼任	教授	岡崎 勲	平成21年9月	臨床医学特論Ⅰ(内科系)	授業内容の充実を図るため兼任教員を追加(21)	
				兼任	教授	岩本晃明	平成21年9月	臨床医学特論Ⅰ(内科系)		
				兼任	教授	鈴木 元	平成21年9月	臨床医学特論Ⅰ(内科系)		
				兼任	教授	岡田耕治	平成21年9月	臨床医学特論Ⅰ(内科系)		
				兼任	准教授	岡部輝雄	平成21年9月	臨床医学特論Ⅰ(内科系)		
				兼任	講師	静間 徹	平成21年9月	臨床医学特論Ⅰ(内科系)		

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	教授	村山史雄	平成21年4月	臨床医学特論II(外科系)	兼任	教授	蘇原正則	平成21年9月	臨床医学特論II(外科系)	平成21年4月、村山史雄兼任教授、鈴木裕兼任教授の就任辞退による担当者の変更(21) 授業内容の充実を図るため兼任教員を追加(21)
兼任	教授	鈴木裕	平成21年4月	臨床医学特論II(外科系)	兼任	教授	真船健一	平成21年4月	基礎腫瘍学 臨床腫瘍学I(基礎) 臨床腫瘍学II(応用) 臨床医学特論II(外科系)	
					兼任	教授	沼崎啓	平成21年9月	臨床医学特論II(外科系)	
					兼任	教授	大和田倫孝	平成21年9月	臨床医学特論II(外科系)	
					兼任	教授	矢崎貴仁	平成21年9月	臨床医学特論II(外科系)	
					兼任	准教授	若江幸三良	平成21年9月	臨床医学特論II(外科系)	

(注)・認可申請書の様式第3号(その2の2)に準じて作成してください。

なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、(表題)を「共通」とし、表を分けて作成してください。

- ・後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 - ・辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 - ・年齢は、就任年度に関わりなく、「認可時の計画」には、開設時現在の満年齢を、「変更状況」には、平成22年5月1日現在の満年齢を記入してください。
 - ・教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
- また、「専任教員採用等変更書(A.C)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出し、教員判定の結果が出ていない場合は「〇年〇月変更書提出済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数

認可時の計画				変更状況				備考
研究指導教員	研究指導補助教員	計	助手	研究指導教員	研究指導補助教員	計	助手	
18	2	20	0	18	6	24	0	
(18)	(2)	(20)	(0)	[0]	[4]	[4]	[0]	

(注)・「認可時の計画」には、設置認可時に予定されていた完成時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成22年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[]内に設置認可時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)

(3) 専任教員辞任等の理由

番 号	職 位	専任教員氏名	辞任（就任辞退を含む）等の理由
1	講師	渡辺 茂和	当該教員の個人的事情により、本学を自己都合退職したため、薬科学研究科も就任辞退となった。(21)
2	准教授	北川 明	当該教員の個人的事情により、本学を自己都合退職したため、薬科学研究科を辞任となった。(22)
3	教授	千葉 百子	当該教員の個人的事情により、本学を自己都合退職したため、薬科学研究科を辞任となった。(22)
4	教授	久岡 正史	当該教員の個人的事情により、本学を自己都合退職したため、薬科学研究科を辞任となった。(22)

(注) ・設置認可時の計画からの専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

専任教員1名が急きょ本学を自己都合により退職することとなり、本研究科就任辞退となったが、担当科目が、病院実務実習の科目であるため、前期については、附属病院所属の兼任教員に退職した教員の担当部分を担当させ、後期については、当該兼任教員を教員審査を経て専任教員とし、退職した教員の担当部分を担当させることとした。
この教員の交代については、4月の研究科のオリエンテーションの際に周知した。(21)

各教員とも、やむを得ない理由による退職のため、薬科学研究科の専任教員も辞任することを了承した。学生には掲示、オリエンテーション及び履修の手引き（学生便覧）への掲載により周知した。これに伴う、教員の補填並びに増員を行ったので、教育の実施には支障はないと考えている。(22)

(注) ・上記(3)の教員の辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
<p>認 可 時</p> <p>(20年10月)</p>	<p>・東京キャンパスの学生に対する教育研究指導に支障がないよう、キャンパス間における学生の移動に配慮し、学生の負担が過度にならないようにすること。</p> <p>・「臨床病院実務実習Ⅱ（中期）」について、社会人の場合、臨床経験に鑑み、実習を免除することがあるとしているが、現行の大学設置基準では、臨床経験のみをもって単位として認定することは認められていないので、修正すること。また、実習の指導体制について、実習免除がないことを前提とした教員の補充、配置を検討し、臨床実習の実施について支障がないようにすること。</p>	<p>・東京キャンパスの学生への教育研究指導については、講義はテレビ会議システムによる同時・双方向の遠隔授業を実施し、学生の移動の負担を軽減している。</p> <p>・研究指導は、大田原キャンパスの専任教員が中心となるが、週2～3回程度の電子メールもしくは電話による指導・連絡を行い、学生の移動の負担を軽減している。</p> <p>・研究指導教員は、大田原キャンパスでの教育研究に支障のない範囲で、随時学生と連絡を取り、東京キャンパスに赴き、直接学生に研究指導を行う。さらに、夏季・春季に大田原キャンパスで実施される集中授業、「特別実習」等の際に、必ず修士論文作成又は課題研究に関する面談を実施し、学生の移動回数の軽減を図っている。また、東京キャンパスにも専任教員や兼任教員を配置し、大田原キャンパスの専任教員との連絡調整や東京キャンパスの学生への教育指導を行う。21</p> <p>・臨床経験のみをもって単位を認定することは行わないこととした。</p> <p>・「臨床病院実務実習」の教員については、兼任教授として申請した教員を、専任教授とし（平成21年6月専任教員採用等設置計画変更書提出予定）、申請時の教員組織の教育を担保し、教育内容が申請時より低下しないように努め、臨床実習の実施について支障のないよう、今後引き続き、教員の充実を行いたい。</p> <p>21</p>	

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
<p>認 可 時</p> <p>(20年10月)</p>	<p>・一部の教員については担当する科目が多く、負担が過重となっているので、教員の新規採用を含め、引き続き負担軽減方策について検討すること。</p> <p>・福岡リハビリテーション学部理学療法学科の入学定員超過の是正に努めること。</p>	<p>・「臨床病院実務実習」の教員については、兼任教授として申請した教員を後期から専任教授とし（平成21年6月変更書提出）、申請時の教員組織の教育を担保し、教育内容が申請時より低下しないように努め、臨床実習の実施について支障のないよう、今後引き続き、教員の充実を行いたい。</p> <p>・実習担当の専任講師が退職したため、その担当部分の補てんは、上記の兼任教授（後期から専任教授）が行う。</p> <p>・平成21年4月開講時、「臨床病院実務実習Ⅲ（短期）」「臨床保険薬局実務実習Ⅱ（短期）」の履修希望者がいなかったため未開講となり、結果として教員補充の緊急性は減じたが、なお、実習内容の維持・充実を図るため、教員の補充を行いたい。</p> <p>・ただし、一部の特に臨床薬学系の教員の負担がなお過重な状態にあることから、きめ細かな教育を行うためにはなお非常勤教員又は専任教員の採用を含めた教員の補充を今後も検討する。21</p> <p>・平成21年4月の福岡リハビリテーション学部理学療法学科の入学状況は、入学定員80名、入学者82名、入学定員超過率は1.02倍で、ほぼ定員どおりであり、留意事項を履行できたと考える。21</p>	

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設置計画履行状況 調 査 時 (21年2月)	<p>○認可時の留意事項である「一部の教員については担当する科目が多く、負担が過重になっていること。」を解消するため、教員の新規採用等により教育体制の充実を図りつつ、引き続き負担軽減方策について検討すること。</p> <p>○認可時の計画で就任予定であった教員の就任辞退等により、後任教員が未定であり、未開講となっている「人体病理学研究法」については、早急に後任教員を配置し、開講すること。</p> <p>○学生のニーズを踏まえ、図書の実充及び電子ジャーナルの整備に努めること。</p> <p>○設置計画履行状況報告書やシラバス等において、記載内容の誤り・不整合が散見されたので、作成にあたっては正確を期すこと。</p>	<p>○平成21年度には専任教員3名が辞任したが、平成22年4月に専任教員6名の新規採用を行った結果、3名の純増となり、教育体制の充実並びに負担が過重な教員の負担を図った。 22</p> <p>○「人体病理学研究法」については、後任教員（林皓三郎・兼任講師）を配置し、通常開講した。 22</p> <p>○薬学関係図書については、他分野に比して2倍の予算措置を行い、蔵書を整備した。研究の基礎データとなる学術雑誌については、第一三共株式会社中央図書館からの寄贈を受けるなど10,000冊以上の拡充を図った。電子ジャーナルについては、ダウンロード等の利用状況及び非所蔵誌に対する文献複写の申込状況を勘案して、費用対効果を考慮しながら整備を進める予定である。 22</p> <p>○設置計画履行状況報告書やシラバス等の作成にあたっては、記載内容の誤りや不整合がないよう、精査・確認を行い、正確な作成に努めた。 22</p>	

- (注) ・ 「認可時」には、当該大学等の設置認可時に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、毎年度、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された留意事項に対する履行状況等について、毎年度、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料を添付してください。
 - ・ 入学定員超過に係る留意事項への履行状況については、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

7 全般的事項

1. 設置認可申請書の「大学等の設置の趣旨及び特に設置を必要とする理由を記載した書類」の項目に沿って、認可時の計画及びその履行状況等を各項目ごとにA4判1～2枚程度で以下の様式により作成してください。
2. 「設置認可時の計画」欄は、以下の記載の項目(様式の網掛け部分)に関する内容を箇条書き等により簡潔に設置認可申請書から転載してください。
3. 「履行状況」欄については、項目に対する履行状況等を記載するとともに、必要に応じ、履行状況を示すデータ(データ等については、各大学で作成している独自のデータ等を利用することも可能です)を各項目ごとに添付又は転載してください。
また、記載に当たっては、単に「計画通りに履行している。」等の記載は避け、具体的に記載してください。
4. 認可時の計画から変更が生じている場合は、「履行状況」欄に、その変更箇所を見え消しで記載し、理由も付記してください。
5. 添付資料の該当部分を各項目の履行状況を示すデータとして引用する場合は、資料番号及び参照ページを付記することで、各項目ごとに資料を重複して添付又は転載する必要はありません。

<大学院薬科学研究科医療・生命薬科学専攻>

(1) 設置計画事項等

①設置の趣旨及び必要性

認可時の計画	履行状況
<p>教育上の理念、目的</p> <p>①近年の医療環境が大きく変化する中、患者を中心とした医療薬学、生命薬学の実践がますます重視の傾向。</p> <p>②医療の担い手としての薬剤師に、臨床において薬物治療の専門家としての活動が社会的要請。</p> <p>③これは、病院における薬物治療においてチーム医療の一員としての病院薬剤師とともに、今後地域医療の担い手として期待される保険薬局の薬剤師に対しても同様。</p> <p>④このような薬剤師に対する社会的要請、および医療の現場での医療薬学、生命薬学の知識や経験等の必要性に鑑み、医療現場と密接に連携した、そして一般社会や地域社会の今日的要請にも応え得る高度専門的職業人としての薬剤師の育成を目的。</p> <p>本研究科は、医療薬学、生命薬学の分野における研究能力を備え、薬学の分野に関し、高度専門技術の実践又は研究開発を担う人材を育成する。本研究科本専攻の臨床薬学コース、創薬育薬マネジメントコース、がん薬物療法学コース、生命薬学コースの4つのコースの人材養成の目標は以下のとおりである。</p>	<p>○教育上の理念、目的及び養成する人材像を以下の資料等により明示し、認可時の計画通り履行。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬科学研究科パンフレット(添付資料①) ・ホームページ (http://www.iuhw.ac.jp/daigakuin/yakka/index.html) <p>【以下、パンフレット・ホームページ(共通)から抜粋】</p> <p>本大学院では、2009年4月より新たに「薬科学研究科医療・生命薬科学専攻(修士課程)」を開設します。医療現場と密接に連携し、一般社会や地域社会の今日的要請に応え得る高度専門職業人としての薬剤師を養成します。</p> <p>ご挨拶</p> <p>昨今の医療の高度化、専門分化に伴い、薬剤師にはチーム医療への参画はもとより、特定の領域・分野において、より専門的な知識・技術・経験が求められています。このような今日的要請に応えるべく、本大学院薬科学研究科は、高い臨床能力とリサーチマインドを身につけた高度専門職業人としての薬剤師を育成してまいります。そのため、「臨床薬学」・「がん薬物療法学」・「創薬育薬マネジメント」・「生命薬学」の4つのコースを設置し、それぞれのコースに合った特色ある高度教育を実施いたします。また、臨床現場等での課題を抽出して研究により解決する、問題解決能力を有する薬剤師を養成</p>

認可時の計画	履行状況
<p>① 臨床薬学コース 臨床薬学コースは、患者を中心としたチーム医療に熟知した高い臨床能力を有する薬剤師や地域医療のレベルアップに貢献し、牽引できる薬剤師を育成する。</p> <p>② 創薬育薬マネジメントコース 創薬育薬マネジメントコースは、臨床試験の中核となるスタッフとして、企画立案から実施までをマネジメントできる人材を育成する。</p> <p>③ がん薬物療法学コース がん薬物療法学分野では、質の高いがん医療を展開できる医療専門職としてのがん専門薬剤師を育成する。</p> <p>④ 生命薬学コース 生命薬学コースは、病院実習を通じて臨床での問題を抽出して基礎研究に発展させ、問題解決能力および高い研究能力を有する人材を育成する。</p>	<p>したいと考えております。さらに、社会人のニーズにも応えたカリキュラム構成をとり、向学心のある社会人学生の要望に応える大学院ともなっております。</p> <p>1. 臨床薬学コース (キャンパス 大田原・東京 時間帯 昼間・夜間※) 臨床における問題解決能力を有することで、病院薬剤師の業務に精通し、患者を中心としたチーム医療に貢献できる薬剤師や、保健薬局薬剤師の業務に精通し、地域医療を牽引しうる薬剤師を育成する。</p> <p>2. がん薬物療法学コース (キャンパス 大田原・東京 時間帯 夜間※) 質の高いがん医療を展開できる医療専門職としてのがん専門薬剤師を育成する。日本病院薬剤師会認定の「がん薬物療法認定薬剤師」あるいは「がん専門薬剤師」を目指す。医療機関に勤務しながら学ぶ学生の育成にあたる。</p> <p>3. 創薬育薬マネジメントコース (キャンパス 大田原・東京 時間帯 夜間※) 臨床試験の中核となるスタッフとして、企画立案から実施までをマネジメントできる人材を育成する。医療機関や製薬企業に勤務しながら学ぶ学生の育成にあたる。</p> <p>4. 生命薬学コース (キャンパス 大田原 時間帯 昼間・夜間※) 薬剤師業務に精通した上で、高度の薬学的管理能力やトランスレーショナルリサーチへの参画および医師との共同研究が可能な研究能力を有する薬剤師を育成する。</p> <p>※夜間コースでも昼間の時間帯に開講される科目があり、履修にあたっては事前に確認が必要です。</p>

②教育課程の編成の考え方及び特色

認可時の計画	履行状況
<p>(a) 教育課程編成の考え方 理念、目的に即して、</p> <p>①共通科目 「人体病理学研究法」「統計学」「統計学入門」「実例から学ぶ統計解析入門」「人体の構造と機能」「臨床遺伝学概論」「脳障害の生物学」「疫学概論」「臨床心理学概論」「社会福祉概論」「医療経済評価概論」「医療福祉情報学入門」「医学用語初歩」</p>	<p>設置認可申請書の様式第2号の授業科目の概要を添付、変更が生じた下記の科目の新旧を添付。(21) (P. 47～P. 52)</p> <p>「臨床病院実務実習Ⅰ(長期)」「臨床病院実務実習Ⅱ(中期)」「臨床病院実務実習Ⅲ(短期)」</p> <p>変更が生じた下記の科目の授業科目の概要の新旧対照表を添付。(22)(P. 53～P. 67) 「人体病理学研究法」「実例から学ぶ統計解析入門」「人体の構造と機能」「臨床遺伝学概論」「脳障害の生物学」「疫学概論」「がんの基礎薬学」「臨床薬物動態学特論Ⅱ(応用)」「医療コミュニケーション論」「創薬育薬医療講義Ⅱ(応用)」「創薬育薬医療演習Ⅰ(基礎)」「創薬育薬医療演習Ⅱ(応用)」「創薬育薬医療演習Ⅲ(展開)」「医療・生命薬科学特別研究」</p>

認可時の計画	履行状況
<p>②専門科目</p> <p>○薬学基礎科目 「臨床医学特論Ⅰ（内科系）」「臨床医学特論Ⅱ（外科系）」「薬理学特論」「薬物治療学特論」「ゲノム分子生物学特論」</p> <p>○総合演習科目 「医療・生命薬科学総合演習Ⅰ（生命系）」「医療・生命薬科学総合演習Ⅱ（医療系）」</p> <p>○がん薬物療法関連科目 「がんの基礎薬学」「基礎腫瘍学」「がんの薬物療法学」「臨床腫瘍学Ⅰ（基礎）」「臨床腫瘍学Ⅱ（応用）」「緩和薬理学」「臨床薬物動態学特論Ⅰ（基礎）」「臨床薬物動態学特論Ⅱ（応用）」「がん薬物療法学特別演習」「がん治療TDM特別実習」「がん薬物療法認定薬剤師実習」</p> <p>○創薬育薬医療関連科目 「医療コミュニケーション論」「創薬育薬医療講義Ⅰ（基礎）」「創薬育薬医療講義Ⅱ（応用）」「創薬育薬医療演習Ⅰ（基礎）」「創薬育薬医療演習Ⅱ（応用）」「創薬育薬医療演習Ⅲ（展開）」「創薬育薬医療実習Ⅰ（基礎）」「創薬育薬医療実習Ⅱ（応用）」</p> <p>○実習科目 「臨床病院実務実習Ⅰ（長期）」「臨床病院実務実習Ⅱ（中期）」「臨床病院実務実習Ⅲ（短期）」「臨床保険薬局実務実習Ⅰ（長期）」「臨床保険薬局実務実習Ⅱ（短期）」</p> <p>○研究指導科目（必修） 「医療・生命薬科学特別研究」</p> <p>により、教育課程を体系的に編成する。</p>	
<p>(b)教育課程編成の特色</p>	
<p>①共通科目</p>	
<p>医療福祉の基盤的知識を提供する。</p>	<p>〈特色となる授業科目については、クラス編成規模等や必要に応じ、シラバス、科目の概要のサンプルを添付又は転載してください〉</p>
<p>②専門科目</p>	
<p>○薬学基礎科目</p>	
<p>臨床薬学コース、がん薬物療法学コース、創薬育薬マネジメントコース、生命薬学コースの4コースに共通する薬学の基盤的知識を提供する。</p>	<p>特色となる授業科目として、「医療・生命薬科学総合演習Ⅰ（生命系）」「医療・生命薬科学総合演習Ⅱ（医療系）」「がんの薬物療法学」「医療コミュニケーション論」の授業科目の概要を転載。</p>
<p>○総合演習科目</p>	
<p>研究指導教員がオムニバスで担当し、薬学を包括的に俯瞰する能力と総合的な視野を育成し、2年次の特別研究、課題研究を遂行する基礎的能力を涵養する。</p>	<p>【医療・生命薬科学総合演習Ⅰ（生命系）】 専門研究・教育を充実する一方で、薬学の全体を俯瞰できる総合的な演習とした。複数の異なる方法論を身につけ、統合的視野、柔軟な探求精神、総合的判断力をそなえた、これからの学問的および社会的要請に応えることのできる人材育成を目標とする。当演習においては、生命薬学を中心に置き、オムニバス形式とし、生命薬学コースの学生には、広範に</p>

認可時の計画	履行状況
<p>○がん薬物療法関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「がんの薬物療法学」及び「臨床腫瘍学Ⅰ（基礎）」「臨床腫瘍学Ⅱ（応用）」は、実地の医療現場にすぐに役立つ実践的な内容。 ・「緩和薬理学」は、がんの緩和医療に使用される主要薬物の薬理作用と薬剤の適正使用などを学ぶ。 ・「臨床薬物動態学Ⅰ（基礎）」「臨床薬物動態学特論Ⅱ（応用）」では、種々の抗がん剤の体内動態と臨床効果・副作用および処方設計について学ぶ。 ・抗がん剤の創薬化学や発がんと環境衛生を扱う「がんの基礎薬学」で、拡がりをもたせた。 	<p>広がる生命薬学に関する普遍的知識と、最新の知見を、医療薬学およびがん薬物療法学コースの学生には、臨床薬学の基礎を構成している生命薬学の知識や、研究手法を学ぶ。演習の構成は、座学のみではなく、学生によるプレゼンテーションを含めた双方向の参加型演習形式をとる。</p> <p>（尾能満智子／1回）創薬におけるターゲット化合物からの化学合成法について演習する。（渡邊敏子／1回）創薬における化学合成リード化合物の探索について演習する。（後藤了／1回）創薬・薬効成分探索におけるコンピュータによるドラッグデザインについて演習する。（白石昌彦／2回）薬学におけるゲノム科学の寄与、ゲノム薬学の最新の知見とその手法について演習する。（角南明彦／1回）チャネルと薬物の機能解析について演習する。（千葉百子／1回）環境衛生とリスクマネジメントについて演習する。（犬飼正俊／2回）機能未知遺伝子の機能解析、ノックアウト株のウイルスについて演習する。（吉川博治／2回）新規生理活性物質、特異酵素を生産する微生物のスクリーニング、分離法及び微生物による二次代謝産物生産の制御機構の解明について演習する。（金野柳一／1回）D-アミノ酸とDアミノ酸代謝関連酵素の生理的意義について演習する。（黒澤美枝子／1回）生理学の基礎と応用：神経伝達を中心に実験手法の構築について演習する。（武田弘志／1回）ストレス応答と薬剤について演習する。（辻 稔／1回）ストレス適応遺伝子の探索について演習する。</p>
<p>○創薬育薬医療関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療で役立つコミュニケーション能力を身につけることは、高度専門職業人としての薬剤師にとってもきわめて重要と考え、「医療コミュニケーション論」を設けた。 ・製薬企業あるいは医薬品開発業務受託機関（CRO）などにおいて治験（臨床試験を含む）関連業務に従事するモニターやコーディネーターに必要な知識と実際について学ぶ科目を充実させた。 <p>○実習科目</p> <p>疾病の総合的な理解、薬物療法の総合的および具体的理解のためには、個々の患者の疾病に対応した薬物治療を、臨床を通じて学ぶことが重要であるとの観点から中期・長期の実習を必修とした。</p>	<p>【医療・生命薬科学総合演習Ⅱ（医療系）】</p> <p>医療・生命薬学総合演習Ⅱは専門研究・教育を充実する一方で、薬学の全体を俯瞰できる総合的な演習とした。複数の異なる方法論を身につけ、統合的視野、柔軟な探求精神、総合的判断力をそなえた、これからの学問的および社会的要請に応えることのできる人材育成を目標とする。当演習においては、医療薬学を中心に置き、オムニバス形式とし、生命薬学コースの学生には、臨床における薬学へのニーズや、translational research等の最新の知見や、縦横的な薬学研究の精神を学び、医療薬学およびがん薬物療法学コースの学生においては、細分化されつつある医療薬学の全体像を再構築し、ならびに最新の医療薬学の知見や流れを学ぶ。演習の構成は、座学のみではなく、学生によるプレゼンテーションを含めた双方向の参加型演習形式をとる。（原 明義／2回）臨床薬理学の概念-臨床と基礎のtranslation-、臨床薬理学における最新の研究とその手法について演習する。（旭満理子／3回）医療薬学とは何か？-研究のあり方と手法-、医療薬学の今後の方向性-専門薬剤師と研究-について演習する。また、まとめを担当する。</p>

認可時の計画	履行状況
	<p>(小瀧 一／2回) translational research及び translational researchにおける薬剤師の関わり、について演習する。(久岡正史／2回) 薬物動態が臨床に果たす役割、Drug Deliverrey System-最新の t a r g e t t i n g 薬剤を中心に、について演習する。</p> <p>(佐藤拓夫／2回) 臨床試験及び臨床試験における薬剤師の重要性について演習する。(池田俊也／2回) 薬剤経済、医療経済について演習する。(山田治美／2回) 臨床でのTDM応用、血中薬物動態研究とその最新研究法について演習する。</p> <p>【がんの薬物療法学】</p> <p>近年、がん基本法の施行に伴い、がん対策推進基本計画において行政と医療従事者そして国民の間で、がん予防を始め、がん医療における全国的な取り組みがなされるようになってきた。薬剤師においても、日本病院薬剤師会認定制度のがん専門薬剤師およびがん薬物療法認定薬剤師が設けられ、がん医療における薬剤師の専門性を高める動きが始まっている。このなかで、薬剤師ががん医療において果たす役割を理解し、チーム医療に貢献できる薬剤師となるための基本的知識を講義する内容とする。また、がん医療におけるチーム医療の特徴を通じ、薬剤師に現在期待されている役割を統合的視野に立って理解する。さらに各種抗がん剤について、臨床での各種がん療法におけるレジメンとその適正使用や、がん患者に対する服薬指導とインフォームドコンセントをターミナルケアも視野に入れつつ包括的に理解する。また、抗がん剤に必ず存在する副作用について循環器障害を中心に学び、さらに副作用の軽減のための対処について学ぶ。</p> <p>(旭満里子／4回) がん専門薬剤師、がん薬物療法認定薬剤師制度の概説と、医師と薬剤師との連携、がん薬物治療における薬剤管理指導業務やターミナルケアを含むがん治療における服薬指導を解説する。(小瀧一／2回) チーム医療における薬剤師の役割および抗がん剤の適正使用に関わる薬剤師の役割を詳述する。</p> <p>(角南明彦／1回) 抗がん剤に必ず付随する副作用を概説し、副作用回避・軽減のための対処法を解説する。(原 明義／1回) 抗がん剤に必ず付随する副作用の中で特に臨床において重大な副作用である抗がん剤による循環器障害について詳説する。</p>

認可時の計画	履行状況
	<p>【医療コミュニケーション論】</p> <p>創薬育薬医療チームをはじめ医療に従事する職種においては、コミュニケーションの能力が重要である。この授業では医療コミュニケーションについての基礎的な知識や理論を学び、臨床試験の支援の際だけでなく、医療で役立つコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。模擬患者とのワークショップなどを積極的に取り入れた体験型の学習も試みる。到達目標としては患者や創薬育薬チーム構成員との意思疎通、傾聴や共感が行えること。自分の考えを分かり易く正しく伝えることができること。医療コミュニケーションの理論や考え方を正しく説明できることを設定する。</p> <p>(中野重行/8回) イントロダクション、自分のコミュニケーションスタイルを知る、自分の意見をどう伝えるか、医療面接デモンストレーション、まとめを担当する。(青谷恵利子/5回) 医療コミュニケーション理論、家族看護理論と医療、リーダーシップ理論、医療チームのコミュニケーション、インフォームドコンセントについて講義する。(中原綾子/2回) 模擬患者に参加してもらい、臨床試験のインフォームドコンセント取得を例に医療コミュニケーションについて演習する。</p>

③履修指導の方法(入学から卒業までどのように教育するのか)

認可時の計画	履行状況
<p>(a) 標準終了年限 2年</p> <p>(b) 卒業要件 本研究科本専攻は、4コースに分かれており、コースごとの修了要件及び履修方法は以下のとおりである。</p> <p>【臨床薬学コース】医療・生命薬科学総合演習Ⅰ(2単位)、医療・生命薬科学総合演習Ⅱ(2単位)、臨床病院実務実習Ⅰ(10単位)又は臨床保険薬局実務実習Ⅰ(10単位)、医療・生命薬科学特別研究(10単位)、合計24単位必修。それ以外に選択科目の中から6単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士の学位論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格しなければならない。</p> <p>【創薬育薬マネジメントコース】医療コミュニケーション論(2単位)、創薬育薬医療講義Ⅰ(基礎)(2単位)、創薬育薬医療講義Ⅱ(応用)(2単位)、臨床病院実務実習Ⅱ(6単位)、医療・生命薬科学特別研究(10単位)、合計22単位必修。それ以外に選択科目の中から8単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士の学位論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格しなければならない。</p>	<p>○進級状況、成績評価の分布状況については、平成21年4月開設のため、まだ実績がない。</p> <p>○大学院学則の修了要件</p> <p>(修了の要件)</p> <p>第8条 修士課程の修了要件は、第4条第1項に定める年数以上在学し、所要の科目を履修して、医療福祉学研究科保健医療学専攻及び医療福祉経営専攻、薬科学研究科医療・生命薬科学専攻については30単位以上、医療福祉学研究科臨床心理学専攻については32単位以上修得し、必要な研究指導を受け、かつ本課程の目的に応じ、修士の学位論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格しなければならない。</p> <p>2 前項の修了の要件に係る在学年数に関しては、優れた業績を上げた者については、研究科会議の定めるところにより、特例として1年以上在学すれば足りるものとする。</p>

認可時の計画	履行状況
<p>【がん薬物療法学コース】がんの基礎薬学（1単位）、基礎腫瘍学（1単位）、がんの薬物療法学（1単位）、臨床腫瘍学Ⅰ（基礎）（1単位）、緩和薬理学（1単位）、臨床薬物動態学特論Ⅰ（基礎）（1単位）、がん薬物療法学特別実習（2単位）、がん治療TDM実習（2単位）、がん薬物療法認定薬剤師実習（6単位）、医療・生命薬科学特別研究（10単位）必修、合計26単位必修。それ以外に選択科目の中から4単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士の学位論文又は特定の課題についての研究の審査の成果及び最終試験に合格しなければならない。</p> <p>【生命薬学コース】医療・生命薬科学総合演習Ⅰ（2単位）、医療・生命薬科学総合演習Ⅱ（2単位）、臨床病院実務実習Ⅱ（6単位）、医療・生命薬科学特別研究（10単位）、合計20単位必修。それ以外に選択科目の中から10単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。</p> <p>※履修制限のある科目 1. 「医療・生命薬科学総合演習Ⅰ」「医療・生命薬科学総合演習Ⅱ」は、臨床薬学コース及び生命薬学コースの学生のみ履修可能（必修科目）。 2. 「がん薬物療法特別実習」「がん治療TDM実習」「がん薬物療法認定薬剤師実習」は、がん薬物療法学コースの学生のみ履修可能（必修科目）。 3. 「創薬育薬医療講義Ⅰ（基礎）」「創薬育薬医療講義Ⅱ（応用）」「創薬育薬医療演習Ⅰ（基</p> <p>(c) 進級要件、履修科目の登録の上限 進級要件：上記修了要件及び履修方法により、特に進級要件としては定めていない。</p> <p>履修科目の登録の上限：大学院であることもあり、特に定めていない。</p>	<p>○がん薬物療法学コースの修了要件及び履修方法、単位数の誤記の訂正</p> <p>【がん薬物療法学コース】がんの基礎薬学（1単位）、基礎腫瘍学（1単位）、がんの薬物療法学（1単位）、臨床腫瘍学Ⅰ（基礎）（1単位）、緩和薬理学（1単位）、臨床薬物動態学特論Ⅰ（基礎）（1単位）、がん薬物療法学特別実習（1単位）、がん治療TDM実習（1単位）、がん薬物療法認定薬剤師実習（6単位）、医療・生命薬科学特別研究（10単位）必修、合計24単位必修。それ以外に選択科目の中から6単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士の学位論文又は特定の課題についての研究の審査の成果及び最終試験に合格しなければならない。</p> <p>○大学院授業科目履修規程（平成21年4月制定） （進級・留年） 第10条 各研究科・専攻・分野で指定した授業科目の単位を修得しなければ、進級又は当該研究科・専攻・分野で指定した科目の履修ができない場合がある。</p>

認可時の計画	履行状況
<p>(d) 成績評価法、基準 学則、規程による。</p> <p>(e) 既修得単位の認定方法等 学則、規程による。</p>	<p>○大学院学則の成績評価 (成績の評価) 第7条の3 成績の評価は、優・良・可・不可の4種とし、優・良・可を合格、不可を不合格とする。</p> <p>○大学院授業科目履修規程 (成績評価) 第5条 成績評価は定期試験の他に論文、報告書の提出、平素の修業状況等を加味することができる。 2 成績評価については、大学院学則第7条の3に基づき、次の各号に掲げるとおりとする。 一 優(A) 100点満点法による100点から80点まで 二 良(B) 100点満点法による79点から70点まで 三 可(C) 100点満点法による69点から60点まで 四 不可(D) 100点満点法による59点以下 3 優、良および可は合格、不可は不合格とする。</p> <p>○大学院授業科目履修規程 (既修得単位の認定) 第9条 入学前に他の大学院で修得した単位は10単位を超えない範囲で認定する。また入学後に他の大学院で修得した単位を、入学前に修得した単位及び入学後に修得した単位を合わせて10単位を超えない範囲で認定する。 2 認定を受けようとするものは、「既修得単位認定申請書」に「成績証明書」を添付し、審査を受けなければならない。 3 認定された単位の成績表示は「認定」とする。</p>

④各施設、学生の自習室等の考え方

認可時の計画	履行状況
<p>(a) 講義・演習室</p> <p>1. 大田原キャンパスのL棟(大学院棟)は医療福祉学研究科と共用。医療福祉学研究科の学生は、研究指導や実験・実習は、実際上は、基礎となる保健医療学部の教員研究室や実験・実習室のある別棟で実施。このため、共用でも、薬科学研究科の学生の学習、研究に支障はない。L棟(大学院棟)には、5教室に遠隔授業システム設備を整備。</p> <p>2. 大田原キャンパスのN棟(薬学部棟)は、薬学部との共用。基礎となる薬学部との共用は、薬学の教員研究室、実験・実習室があることから、一般的。</p>	<p>計画どおり、大田原キャンパスのL棟(大学院棟)、N棟(薬学部棟)の教室、研究室等及び東京青山キャンパスの教室を利用して、授業等を実施。</p>

認可時の計画	履行状況
<p>3. 6年制の薬学部が完成年次に達する平成23年度には薬学部の収容定員1080名程度の学部学生が在学する見込み。このため、主に6年制薬学部の授業を行う教室等を整備したO棟を新築し、薬学部の授業の一部をO棟で実施。これにより、薬科学研究科の学生がN棟（薬学部棟）の教室等で学習・研究を行うのに支障がないよう配慮。</p> <p>4. 東京キャンパスには、6教室（医療情報演習室を含む。）のすべてに遠隔授業システム設備を整備、図書室、学生自習室、学生控室、医務室、事務室会議室等も整備。</p> <p>・設備（機械・器具） 薬学部棟（N棟）各研究室および大学院棟（L棟）各研究室を使用する。動物実験は、N棟およびL棟動物実験室、in vitroでの細胞培養に関しては、P2実験室あるいは各研究室での細胞培養装置にて実施。また、がん薬物療法学の実習はN棟医療系実習室および本学大学病院薬剤部を使用。 各研究系の機器整備状況は以下のとおり。</p> <p>① 生命薬学系 ・薬理系：行動解析に自発運動測定システムおよび行動解析用カラービデオトラッキングシステム等、生体成分の分析には生体計測用電子スピン共鳴（ESR）装置。 ・臨床薬理系：ランゲンドルフ灌流装置にて、心臓電気生理学的実験を、パッチクランプ実験装置にて電気生理学実験を実施。 ・分子生物学系：DNA塩基配列解析装置、real-time PCR、サーマルサイクラーを中心にもちいて遺伝子解析。 ・薬物動態解析系、衛生系：LC/MS/MS、高速液体クロマトグラフィーを用いて、薬物・生体成分・環境物質の測定。 化学系：核磁気共鳴装置（NMR）一式、有機合成装置。</p> <p>② 臨床薬学系 ・データ解析用にPC（OS：Windows Vista）を準備し、office2007を搭載し、レポート作成、課題研究報告書作成。さらに統計解析ソフトSPSS14.0を搭載し、データ解析。</p> <p>③ 創薬育薬マネジメント系 ・データ解析用にPC（OS：Windows Vista）を準備し、office2007を搭載し、レポート作成、課題研究報告書作成。さらに統計解析ソフトSPSS14.0を搭載し、データ解析。</p> <p>④ がん薬物療法学系 ・抗がん剤の調製実習：安全キャビネット（3台）。 ・TDM実習：TDXFLx、高速液体クロマトグラフィーを用いた血中薬物濃度測定実習。</p>	<p>○申請時に整備済みである。 平成21年度において本研究科本専攻には、生命薬学コース3名、臨床薬学コース6名、がん薬物療法学コース6名及び創薬育薬マネジメントコース1名、計16名が在籍している。各コースにおける設備使用状況は以下のとおりである。</p> <p>① 生命薬学系 ・薬理系：自発運動測定システムおよび行動解析用カラービデオトラッキングシステムを用いた行動解析。N棟およびL棟動物実験室における動物実験。N棟およびL棟における細胞培養装置（安全キャビネット）を使用した細胞培養。 ・薬物動態解析系：LC/MS/MS、高速液体クロマトグラフィーを用いて、薬物濃度の測定。N棟およびL棟動物実験室における動物実験。N棟およびL棟における細胞培養装置（安全キャビネット）を使用した細胞培養。real-time PCR、サーマルサイクラーを用いたmRNA解析。</p> <p>② 臨床薬学系および創薬育薬マネジメント PC（OS：Windows Vista、office2007を搭載）をもちいて、データ解析、レポート作成および究報告書作成。</p> <p>③ がん薬物療法学系 抗がん剤の調製実習に安全キャビネット（3台）使用、およびTDM実習にTDXFLx、高速液体クロマトグラフィーを用いた血中薬物濃度測定を実施予定</p>

認可時の計画	履行状況
<p>(b) 自習室</p> <p>図書館や自習室の利用は、大田原キャンパスでは授業期間は午後11時まで、それ以外の期間でも午後8時30分まで図書館を開館。東京キャンパスの図書室、自習室も原則として午後9時30分まで開放。</p> <p>(c) 図書(データベース等含む)</p> <p>◎申請時の図書等の整備状況 専門研究は、研究テーマごとに、専門性の高い雑誌を主体に指導を行う。</p> <p>○化学系研究：online journalのJournal of the American Chemical Society, The Journal of Medicinal Chemistry, Tetratron Lett.</p> <p>○薬理系研究：The Journal of Pharmacology and Experimental Therapeutics, Proceedings of National Academy of Sciences of the United States of American (online journal) を薬理学全般の広範な知識、研究課題を学ぶために用い、神経生理学を学ぶために、The Journal of Neuroscience, Molecular and Cellular Neuroscience (online journal)</p> <p>○分子生物系研究：Cell, Molecular Cell (online journal)</p> <p>○臨床薬理系研究：The Journal of General Physiology, The Journal of Physiology (online journal) で分子薬理学、チャネルの電子生理学を学ぶ。</p> <p>○薬物動態・衛生系研究：Drug Metabolism and Disposition (online journal), Drug Metabolism and Pharmacokinetics により、薬物動態に関する広範な研究内容をJournal of Chromatography B Analytical Technologies in the Biomedical and Life Sciences (online journal) により分析手法を学ぶ。</p> <p>○創薬育薬マネジメント研究：Drug Information Journal, The Regulatory Affairs Journal of Pharmacy, 「医薬品研究」を購入し、欧米における治験の状況を把握し、ICHの中での日本の治験の状況を学ぶ。</p> <p>○医療系薬学研究：『アプライドセラピューティクス 症例解析にもとづく薬物治療』『クリニカル・ファーマシーのための疾病解析』『医療薬学』</p> <p>○諸講義：『大学院講義有機化学』『マクマリー有機化学』『創薬化学』『グッドマン・ギルマン薬理書』, Ion channels of excitable membrane, 『遺伝子の分子生物学』『細胞の分子生物学』、研究指導時に使用するjournalも教材に使用。</p> <p>○がん薬物療法学：各種がん治療ガイドラインを中心にがん治療を専門的に学び、『抗癌剤調製マニュアル』『抗癌剤業務ハンドブック』で、手技・業務内容を修得。</p> <p>その他学習用：医中誌online, JDreamII, メディカルオンライン、Wiley InterScience, ProQuest Health and Medical Complet, ScienceDirect等のonline journal</p>	<p>図書館や自習室の利用は、計画どおり、大田原キャンパスでは授業期間は午後11時まで、それ以外の期間でも午後8時30分まで図書館を開館。東京青山キャンパスの図書室、自習室も原則として午後9時30分まで開放。</p> <p>◎申請時に整備済みである。</p> <p>〈施設・設備の概要、利用計画・利用状況等を記載〉 平成21年度において生命薬学コース3名、臨床薬学コース6名、がん薬物療法学コース5名および創薬育薬マネジメントコースに1名が在籍している。各コースにおける図書使用状況は以下のとおりである。</p> <p>○薬理系研究・演習：The Journal of Pharmacology and Experimental Therapeutics, Proceedings of National Academy of Sciences of the United States of American (online journal)、The Journal of Neuroscience, Molecular and Cellular Neuroscience (online journal) を中心に使用。</p> <p>○薬物動態系研究・演習：Drug Metabolism and Disposition (online journal), Drug Metabolism and Pharmacokinetics, Journal of Chromatography B Analytical Technologies in the Biomedical and Life Sciences (online journal)、Cell, Molecular Cell (online journal) を中心に使用。</p> <p>○創薬育薬マネジメント研究・演習：Drug Information Journal, The Regulatory Affairs Journal of Pharmacy, 「医薬品研究」を中心に使用。</p> <p>○医療系薬学研究・演習：『アプライドセラピューティクス 症例解析にもとづく薬物治療』『クリニカル・ファーマシーのための疾病解析』、医療薬学、緩和薬理学雑誌を中心に使用。</p> <p>○がん薬物療法学・演習：各種がん治療ガイドラインおよび、『抗癌剤調製マニュアル』『抗癌剤業務ハンドブック』を主に使用。 その他、総合的な演習・講義には、医中誌online, JDreamII, メディカルオンライン、Wiley InterScience, ProQuest Health and Medical Complet, ScienceDirect等のonline journalを使用。</p>

認可時の計画	履行状況
<p>(d)情報設備</p> <p>・大田原キャンパスには5つの遠隔授業用のテレビ会議システム設備が整備された教室があり、東京キャンパスには、5つの教室及び医療情報演習室に遠隔授業用のテレビ会議システム設備が整備されており、同時・双方向の遠隔授業が円滑に行われるよう配慮している。</p>	<p>・計画どおり、大田原キャンパスには5つの遠隔授業用のテレビ会議システム設備が整備された教室、東京キャンパスには、5つの教室及び医療情報演習室に遠隔授業用のテレビ会議システム設備が整備され、同時・双方向の遠隔授業が円滑に行われている。</p>

⑤入学者選抜の概要

認可時の計画	履行状況
<p>(a) 入学者選抜の概要</p> <p>選抜方法は、一般入試のみとし、出願書類、学力試験、小論文および面接の結果を総合的に判定する。</p> <p>(b) アドミッション・ポリシー</p> <p>臨床と密接に連携した、そして一般社会の今日的な要請にも応えうる高度専門職業人としての薬剤師養成を目指すという人材養成の目標を踏まえ、臨床薬剤師として勤務しつつ、大学院修士課程レベルの薬学教育を受けたい者並びに、4年制薬学部卒業生で進学を希望している者を受け入れる。このため、入学対象者は、薬剤師の免許取得者あるいは薬剤師の免許取得見込み者とする。</p> <p>(c) 社会人受け入れのための具体的方策</p> <p>・本研究科は、専門性の高い薬剤師の育成を目指すため、社会人を主たる入学対象者に想定している。従って大半の授業は月曜日から金曜日の夜間あるいは土曜日の昼夜間に開講する。大田原キャンパスと東京青山キャンパスで学生が受講するため、テレビ会議システムによる同時・双方向の遠隔授業を行う。必要な場合にはビデオ・オン・デマンド方式の授業も行う。</p> <p>・臨床病院実務実習、がん薬物療法関連実習、がん薬物療法関連の講義は、大田原キャンパスで夏期・冬期の集中授業を実施し、また、それに接続する形で研究指導も行うなど、社会人のための開講方法の工夫を行っている。</p>	<p>〈学生数の状況、入学選抜要項の抜粋等を転載又は添 選抜方法は、 ・一般入試・・・出願書類、小論文、英語及び面接の総合判定で選抜。 ・社会人特別推薦入試・・・出願書類（勤務先所属長の推薦書を含む。）及び面接の総合判定で選抜。 ・学内推薦入試・・・出願書類（本学薬学部長の推薦書を含む。）及び面接の総合判定で選抜。 とした。</p> <p>薬科学研究科入学定員15名に対し、志願者数18名、受験者数18名、合格者数13名。既設の医療福祉学研究科から転研究科の学生が3名あり、在学者数16名で、1年次学生定員15名を充足している。</p> <p>高度専門職業人としての薬剤師養成という人材養成の目標に基づき、社会人を重視した入学者受け入れ方針に沿って、入学者13名中8名が社会人（病院・薬局勤務薬剤師）。在学者16名中11名が社会人（病院・薬局勤務薬剤師）。</p> <p>社会人学生の就学に配慮して、計画どおり、大半の授業は月曜日から金曜日の夜間あるいは土曜日の昼夜間に開講している。大田原キャンパスと東京青山キャンパスで学生が受講するため、テレビ会議システムによる同時・双方向の遠隔授業やビデオ・オン・デマンド方式の授業を行っている。また、計画どおり、夏期、冬期の集中授業（講義、実習）及び研究指導を行う。</p>

⑥情報提供

認可時の計画	履行状況
<p>○学内(学生・教職員向け) 実施方法 本学では、年報(年1回発行)、紀要(年1回発行)、学報(隔月発行)、インターネット・ホームページを通して、基本理念、組織機構、教育内容、学生活動委員会報告、研究活動、国際交流等について学内外に提供している。 大学院では『国際医療福祉大学大学院修士論文要旨』や『国際医療福祉大学大学院研究報告会プログラム』を作成し、本学大学院生の研究内容の情報提供を行っている。 ○学外(受験生・地域社会向け) 実施方法 本学では、年報(年1回発行)、紀要(年1回発行)、学報(隔月発行)、インターネット・ホームページを通して、基本理念、組織機構、教育内容、学生活動委員会報告、研究活動、国際交流等について学内外に提供している。 大学院では『国際医療福祉大学大学院修士論文要旨』や『国際医療福祉大学大学院研究報告会プログラム』を作成し、本学大学院生の研究内容の情報提供を行っている。また、公開講座「乃木坂スクール」を開講して、一般社会人にも本学大学院の教育研究内容の情報提供を行っている。</p>	<p>〈利用状況、掲載項目・資料の抜粋等を転載又は添付〉 ○本研究科は平成21年4月開設のため、年報、紀要等への記載はない。 ○ホームページ記載事項(学生・教職員向け、受験生・地域社会向け共通) 【以下、パンフレット・ホームページ(共通)から抜粋】(再掲) 本大学院では、2009年4月より新たに「薬科学研究科 医療・生命薬科学専攻(修士課程)」を開設します。医療現場と密接に連携し、一般社会や地域社会の今日的要請に応え得る高度専門職業人としての薬剤師を養成します。 ご挨拶 昨今の医療の高度化、専門分化に伴い、薬剤師にはチーム医療への参画はもとより、特定の領域・分野において、より専門的な知識・技術・経験が求められています。このような今日的要請に応えるべく、本大学院薬科学研究科は、高い臨床能力とリサーチマインドを身につけた高度専門職業人としての薬剤師を育成してまいります。そのため、「臨床薬学」・「がん薬物療法学」・「創薬育薬マネジメント」・「生命薬学」の4つのコースを設置し、それぞれのコースに合った特色ある高度教育を実施いたします。また、臨床現場等での課題を抽出して研究により解決する、問題解決能力を有する薬剤師を養成したいと考えております。さらに、社会人のニーズにも応えたカリキュラム構成をとり、向学心のある社会人学生の要望に応える大学院ともなっております。 1. 臨床薬学コース (キャンパス 大田原・東京 時間帯 昼間・夜間※) 臨床における問題解決能力を有することで、病院薬剤師の業務に精通し、患者を中心としたチーム医療に貢献できる薬剤師や、保健薬局薬剤師の業務に精通し、地域医療を牽引しうる薬剤師を育成する。 2. がん薬物療法学コース (キャンパス 大田原・東京 時間帯 夜間※) 質の高いがん医療を展開できる医療専門職としてのがん専門薬剤師を育成する。日本病院薬剤師会認定の「がん薬物療法認定薬剤師」あるいは「がん専門薬剤師」を目指す。医療機関に勤務しながら学ぶ学生の育成にあたる。 3. 創薬育薬マネジメントコース (キャンパス 大田原・東京 時間帯 夜間※) 臨床試験の中核となるスタッフとして、企画立案から実施までをマネジメントできる人材を育成する。医療機関や製薬企業に勤務しながら学ぶ学生の育成にあたる。</p>

認可時の計画	履行状況
	<p>4. 生命薬学コース (キャンパス 大田原 時間帯 昼間・夜間※) 薬剤師業務に精通した上で、高度の薬学的管理能力や トランスレーショナルリサーチへの参画および医師と の共同研究が可能な研究能力を有する薬剤師を育成す る。 ※夜間コースでも昼間の時間帯に開講される科目があ り、履修にあたっては事前に確認が必要です。</p> <p>(学外、受験生・地域社会向け)【公開講座「乃木坂 スクール」の薬学関係の講座】(ホームページより抜 粋)</p> <p>○「CRCに必要な最新の知識とスキル」</p> <p>A-1. 『行政における医薬品等の安全性情報』 ・安全性情報に関連する法律 ・行政による安全性情報のながれ ・行政による健康被害発生時の対応 4月15日(水) 18:30~20:00</p> <p>A-2. 『臨床試験の安全性情報概論』 ・臨床試験の安全性情報とは ・安全性情報の審査と管理 ・院内での有害事象報告と対応 4月22日(水) 18:30~20:00</p> <p>A-3. 『製薬企業における医薬品等の安全情報』 ・企業における安全性情報の流れ ・治験段階の安全性情報 ・市販後の安全性情報 5月13日(水) 18:30~20:00</p> <p>A-4. 『医療機関における安全性情報の利用』 ・安全性情報の審査と活用 ・治験と市販後での安全性情報の違い ・安全性情報の入手法 5月20日(水) 18:30~20:00</p> <p>コースB: 専門家に学ぶ臨床試験の基礎</p> <p>B-1. 『臨床研究とEBM』 ・臨床試験とEBM ・プロトコルを読むポイント ・臨床試験データを読みポイント 5月27日(水) 18:30~20:00</p> <p>B-2. 『臨床試験と統計』 ・臨床試験と統計 ・推定と検定 ・ランダム化の意義 6月3日(水) 18:30~20:00</p> <p>B-3. 『臨床試験の倫理』 ・臨床試験と生命倫理 ・インフォームドコンセントの歴史 ・倫理委員会の役割 6月10日(水) 18:30~20:00</p>

認可時の計画	履行状況
	<p>B-4. 『臨床試験の利益相反と補償』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利益相反とは ・賠償と補償の違い ・臨床試験における補償 <p>6月17日(水) 18:30~20:00</p> <p>コースC: 同意説明文書の作成と説明(模擬患者(SP)参加型ワークショップ)</p> <p>C-1. 『被験者保護の立場から見た同意説明文書作成のポイント』</p> <p>6月24日(水) 18:30~20:00</p> <p>C-2. 『IRB審査委員の立場から見た同意説明文書審査のポイント』</p> <p>7月8日(水) 18:30~20:00</p> <p>C-3 C-4. 『同意説明文書作成と説明(模擬患者[SP]参加型ワークショップ)』</p> <p>7月11日(土) 13:00~18:00</p> <p>○「CRAのための臨床試験の最前線と展望」</p> <p>1. 『臨床試験の基礎:エビデンスをつくる、つたえる、つかう』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床試験とエビデンス ・システムティック・レビュー ・コクラン計画 <p>4月16日(木) 18:30~20:00</p> <p>2. 『ドラッグラグ・デバイスラグ解消のための医薬品・医療機器の開発に向けた行政の取組-治験・臨床研究の推進を中心に-』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドラッグラグとは ・グローバル開発と日本 ・医薬品開発への施策 <p>4月23日(木) 18:30~20:00</p> <p>3. 『CRAのための統計知識と試験デザイン』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エンドポイントとは ・臨床試験と統計手法 ・臨床試験デザイン <p>5月14日(木) 18:30~20:00</p> <p>4. 『薬剤予測学と医薬品開発』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬剤予測学とは ・有害事象予防への応用 ・育薬と薬剤予測学 <p>5月21日(木) 18:30~20:00</p>

認可時の計画	履行状況
	<p>5. 『臨床試験におけるエンドポイントの課題』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床試験の動向 ・プロトコールを読むポイント ・臨床試験のエンドポイントと課題 <p>5月28日(木) 18:30~20:00</p> <p>6. 『マイクロドーズ臨床試験指針と早期探索的臨床試験への期待』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マイクロドーズ試験とは ・マイクロドーズと医薬品開発 ・早期探索的臨床試験について <p>6月4日(木) 18:30~20:00</p> <p>7. 『GRAのための臨床薬理学の知識』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床薬理学とは ・薬物相互作用と医薬品開発 ・医薬品と健康食品 <p>6月11日(木) 18:30~20:00</p> <p>8. 『わが国の早期臨床試験のあり方』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期臨床試験の動向 ・早期臨床試験の問題点 ・今後のあり方 <p>6月18日(木) 18:30~20:00</p> <p>9. 『創薬育薬医療に望むこと』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創薬育薬医療とは ・医薬品開発における連携 ・チームに望むこと <p>6月25日(木) 18:30~20:00</p> <p>10. 『製薬企業のアジアにおける医薬品開発の現状と問題点』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アジアにおける医薬品開発 ・日本との差異と問題点 ・今後の展望 <p>7月9日(木) 18:30~20:00</p>

認可時の計画	履行状況
	<p>11. 『患者の立場から見た臨床試験』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者の立場から見た医薬品 ・行政に望むこと ・製薬企業に望むこと <p>7月16日(木) 18:30~20:00</p> <p>12. 『国際的な医薬品開発時代における医薬品の有効性・安全性に及ぼす民族的要因の検討』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我が国の医薬品開発の現状 ・グローバル試験と民族的要因 ・今後の展望 <p>7月23日(木) 18:30~20:00</p> <p>(学外・地域社会向け)【薬学フォーラムの開催】</p> <p>日 時：平成19年11月18日(日)</p> <p>場 所：栃木福祉プラザ(栃木県宇都宮市)</p> <p>テーマ：「栃木県から発信する新たな薬学教育と医薬品開発の展望」</p> <p>内 容：①基調講演『今、ストレス社会が求める“くすり”とは』講師：国際医療福祉大学 薬学部長 武田 弘志 ②パネルディスカッション“くすり”と専門職の役割』パネリスト：行政・薬剤師・製薬メーカー・医療現場・教育の各関係者を予定</p> <p>【参加者200名】</p>

⑦管理運営の考え方

認可時の計画	履行状況
<p>(a) 組織体制</p> <p>大学院の運営に当たり、大学院長、研究科長、専攻主任を置く。また、研究科に研究科会議を置く。このほか、次の事項を規定している。</p> <p>①研究科会議は、研究科の教育および運営並びにこれらに關係のある事項を審議する。</p> <p>②研究科会議は、研究科長、研究指導教員及び大学院長の指名する者をもって構成する。</p> <p>③研究科長は、研究科会議を招集し、その議長となる。</p> <p>④研究科長は、必要に応じ、学内外の識者の参加を求めることができる。 研究科会議に関する事項は別に定める。</p> <p>また、「国際医療福祉大学研究科会議規程」(平成21年4月改正案)では、研究科会議について次のとおり規定している。 研究科会議の構成</p> <p>大学院長、研究科長、専攻主任、当該研究科の授業又は研究指導を担当する教授及び准教授、その他大学院長が指名する者</p>	<p>〈委員会の開催状況、関係規程の抜粋等を転載又添付〉</p> <p>大学院代表者会議を月1回、薬科学研究科会議を月1回開催。</p> <p>大学院学則</p> <p>第4章 大学院の運営等 (大学院長)</p> <p>第22条 大学院に大学院長を置く。 (研究科長)</p> <p>第23条 研究科に研究科長を置く。 2 研究科長は、大学院長がこれを兼ねることができる。 (研究科会議)</p> <p>第24条 研究科に研究科会議を置く。 2 研究科会議は、研究科の教育及び運営並びにこれらに關係のある事項を審議する。 3 研究科会議は、研究科長、研究指導教員及び大学院長の指名する者をもって構成する。 4 研究科長は、研究科会議を招集し、その議長となる。 5 研究科長は、必要に応じ、学内外の識者の参加を求めることができる。 6 その他研究科会議に関する事項は、別に定める。</p> <p>研究科会議規程 (構成)</p> <p>第2条 研究科会議は、次の各号に掲げる者をもって構成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一 大学院長 二 研究科長 三 専攻主任 四 当該研究科の授業又は研究指導を担当する教授及び准教授 五 その他研究科長が指名する者
<p>(b) 審議事項</p> <p>ア. 教育課程に関する事項 イ. 学生の入学、休学、復学、退学及び懲戒等に関する事項 ウ. 試験及び単位の認定並びに学位の授与に関する事項 エ. その他教育研究に関する重要事項</p>	<p>研究科会議規程 (審議事項)</p> <p>第3条 研究科会議は、研究科に関する次の事項を審議する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一 教育課程に関する事項 二 学生の入学、休学、復学、退学及び懲戒等に関する事項 三 試験及び単位の認定並びに学位の授与に関する事項 四 その他教育研究に関する重要事項

⑧その他(当該年度の状況が以下の事項に該当する場合は、それぞれの事項ごとの観点に照らして対応状況を説明してください。)

事 項	対 応 状 況
(a) 当該年度の受入学生数が入学定員を著しく下回っている(0.5倍未満)もの 【観点】 ・受入学生数が入学定員を著しく下回っている点を踏まえ、今後の学生募集方法等の改善方策について説明すること(今年度の入試が実施済の場合は、その状況も付記すること)。	該当しない。
(b) 未開講科目数が著しく多い(5科目以上)もの 【観点】 ・未開講科目数が著しく多い点を踏まえ、当初の設置構想に照らして、教育課程が適切に運営されているかについて説明すること。又、履修指導への配慮等を含む改善のための具体的な方策についても説明すること。	該当しない。
(c) 当該専攻の入学定員超過率が1.3倍以上のもの 【観点】 ・入学定員を著しく超過している点を踏まえ、授業の方法(少人数教育等への配慮)、学生の学習環境(自習室の確保等)について、十分な教育効果をあげることができるよう適切に配慮されているかについて説明すること。	該当しない。

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD活動含む)

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況 ※関係規程等を転載又は添付すること → 国際医療福祉大学FD委員会規程添付(P. 45)</p> <p>b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む) 毎月1回 各専攻主任が集まって開催(専攻主任会議)</p> <p>c 委員会の審議事項等 アカデミックハラスメントについて、論文審査について、e-learningの授業について</p> <p>② 実施状況 ※実施されている取組を全て記載すること</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 質的研究について ・ 法学の論文を例にして論文をどう評価するか ・ 臨床心理学の論文とはどのような論文か ・ ケースメソッドを使った教育方法について ・ 大学院教育に関わる先生方が日頃感じている諸問題の確認と、改善方法の提案(以上、21) ・ 大学院教育におけるハラスメントについて ・ アカデミックハラスメントについて具体的事例とそれらを生み出す要因に対する認識を深める ・ 研究者の行動規範について(以上、22) <p>b 実施方法 遠隔テレビ会議システムを使用した質疑応答、グループディスカッション</p> <p>c 開催状況(教員の参加状況含む)</p> <p>平成20年7月23日開催 184名中88名出席(21)</p> <p>平成21年7月22日開催 214名中89名出席(22)</p>
--

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

FDの開催について、参加者の8割は満足した内容と答えた。

ケースメソッドを使った教育方法は、本年度の授業に一部取り入れられた。

「ケースメソッドで考える医療経営」（医療福祉学研究科医療福祉経営専攻医療経営管理分野）
（以上、21）

FDの開催について、参加者の7割は満足した内容と答えた。

今後の研究指導や論文審査の方法など見直しを行う。また、学生アンケートを実施した。

（以上、22）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

別紙のとおり → P. 46

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

~~・平成21年12月1日 公表予定~~

・平成22年9月1日 公表予定(22)

b 公表方法

- ・自己点検・評価報告書を刊行し、学内では役員等、教員及び附属施設の長等各1冊を配布、学外では、文部科学省、日本私立学校振興・共済事業団、日本私立大学協会等の関係団体、医療・保健・福祉系の国公立大学、前記以外の自己点検評価報告書の寄贈を受けた大学、主な学外実習施設、自己点検・評価委員会外部委員、地元記者クラブに各1冊配布
- ・大学ホームページ上に公開予定 ~~（平成21年12月を予定）~~ （平成22年9月を予定）(22)

③ 認証評価を受ける計画

- ・平成19年度に評価機関（財団法人日本高等教育評価機構）の認証評価を受けた。次回、法令に定められた期間内のいつ受けるかは学内で検討中。

(4) 情報提供に関する事項

① 設置認可申請書

- a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)
- b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) (平成21年7月1日)
- c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置認可申請書」掲載ページへのリンク (承諾する ・ 承諾しない)
- d 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先のアドレス
(<http://www.iuhw.ac.jp>)

② 設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)
- b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) (平成21年9月1日)
- c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置計画履行状況報告書」掲載ページへのリンク (承諾する ・ 承諾しない)
- d 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先のアドレス
(<http://www.iuhw.ac.jp>)

- (注) 1 項目は、1～6の項目により記入した事項以外で、認可時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- 2 記入事項は、原則として、設置認可申請書の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。(記入例参照)
- 3 「(3) 自己点検・評価等に関する事項」については、認可時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。また、「A 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、積極的な評価を行う場合、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
記入方法は、欄内には(別紙のとおり)とし、A4版1枚程度で作成した別紙を添付してください。
なお、「B 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。
- 4 「(4) 情報提供に関する事項」の「①」及び「②」の「c」において「承諾する」場合、文部科学省のホームページにてリンク先を掲載しますので、大学等のトップページではなく直接リンクする先を「d」に記入してください。
なお、現在は未公表であり、今後公表を予定している場合は、公表後の取扱いについて記入してください。

国際医療福祉大学 FD 委員会規程

(設置)

第1条 国際医療福祉大学学則第11条に基づき、本学の学部ごと又は複数学部にまたがってFD委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(目的)

第2条 委員会は、本学の定める教学の基本方針にしたがい、教育法の改善及び教員の資質の向上などFD(ファカルティ・ディベロプメント)に関して討議を行い、より質の高い教育方法の推進を図るものとする。

(委員会の構成)

第3条 委員会は、次の各号の委員をもって構成する。

- 一 学部長の意見を聴いて学長が指名する各学科の専任教員、及びセンターがある場合にあってはセンターの専任教員
 - 二 学長が必要と認めた者
- 2 前項第一号の委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 第1項第二号の委員の任期は、学長が必要と認める期間とする。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、委員の中から学長が指名する。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代行する。

(委員会の成立)

第5条 委員会は、半数以上の委員の出席により成立する。

- 2 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(委員以外の出席)

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を委員会に出席させることができる。

(事務処理)

第7条 委員会の事務は、各キャンパス教務事務主管課の長が取り扱う。

(雑則)

第8条 委員会の運営に関し必要な事項は、委員会の議を経て学長が別に定める。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

別紙

①設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

1 医療現場と密接に連携した、そして一般社会や地域社会の今日的要請にも応え得る高度の専門的職業人としての薬剤師の育成

平成21年4月に開設した本専攻は、入学定員15名のところ、13名の入学者を迎えた。うち、8名は社会人の入学者であり、この点は本研究科の特徴を示している。

また、既設の医療福祉学研究科から薬科学研究科へ転研究科した3名の学生を加えると本研究科の1年次学生定員15名に対し、在学者16名となり、ほぼ定員どおりの学生を迎えることができた。

臨床薬学コースでは、社会人入学者は病院薬剤部および保険薬局勤務薬剤師、がん薬物療法学コースでは病院薬剤部勤務薬剤師、さらに創薬育薬マネジメントコースでは探索医療臨床部勤務薬剤師と現職場におけるスキルアップを目的として入学しており、本研究科の目標とする高度専門職業人育成という趣旨に沿ったものとなっている。

また、生命薬学コースでは、学部卒業生(3名)が在籍し、実務実習を行いつつ、研究活動に従事する体制のもと、高度専門職業人を目指す体制となっている。

2 実習等の授業、研究指導での附属病院、関連病院等の活用

本研究科の拠点となる大田原および東京キャンパスにそれぞれ国際医療福祉大学病院、自治医科大学附属病院(特定機能病院)および国際医療福祉大学三田病院(がん拠点病院)をそれぞれ病院実習施設として配置し、高度な特色ある病院実務実習施設の充実を図った。

保険薬局実習施設は、主として大田原を中心とし、栃木県薬剤師会大田原支部支部長の所属薬局を中心に、日本薬剤師会常務理事を非常勤講師として迎え、新たな医療の担い手である薬局業務に関する実習を充実させた。

3 教育課程編成の考え方

教育課程は、薬科学研究科専門科目を基礎薬学関連で5科目、さらに薬学全体を俯瞰できる「医療・生命薬科学総合演習Ⅰ」「医療・生命薬科学総合演習Ⅱ」を置き、高度薬学専門教育の強化を図った。がん薬物療法学・創薬育薬マネジメントコースにおいても、それぞれの教育に即した専門科目を置き、専門性の高い薬剤師教育のための課程を充実させ、設置の趣旨・目的を円滑に達成できるよう配慮した。

4 入学者選抜

入学者選抜にあたり、入試科目には、「英語」「専門科目」「面接」とした。開設初年度の入試ということもあり、11月と2月に計2回の入試を行い、既に記したように8名の社会人を含む13名の入学者を迎えた。

以上